

今週（11月16日から11月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期に入ったことで様子見姿勢となる先もあり、ビッド水準に広がりが見られた。地銀・証券業態は▲0.05～▲0.02%、都銀・信託業態は▲0.07～▲0.065%と低い水準からのスタートとなった。17日以降は調達レートが若干切りあがり、地銀・証券業態は▲0.05～▲0.015%を中心に出会い、都銀・信託業態は▲0.065～▲0.06%前後の出会いが見られた。無担保コールO/N物の加重平均レートは概ね▲0.03%台での推移となった。20日は3連休前ということもあって▲0.02～▲0.015%に地銀のビッドが並び、都銀業態が▲0.05%を取り上がる場面もあったため全体的に強みとなった。ターム物に関しては、1、2Wのショートターム物で▲0.03～▲0.018%近辺で出会いが散見された。日銀当座預金残高は概ね480兆円強で推移した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは17日に2W物・20,000億円がオファーされ、1,404億円（期落ち額1,601億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nの水準は、週半ばに資金運用サイドが一時的に薄くなったことで、レートが低下する場面も見られたが、週後半にはファンディングニーズの高まりからレートは上昇した。週間では▲0.115～▲0.07%のレンジが取引の中心となった。

SC個別銘柄では、5Y133～145、10Y338～360、20Y167～174、30Y59～68、40Y8～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、比較的良好な需給環境が続く中、週前半は堅調な推移となったものの、週後半は3営業日（19・20・24日）連続で入札が行われることもあり、徐々にポジション調整の売りが見られる展開となった。3M物は▲0.108～▲0.103%で出会い、一方で6M・1Y物は動意に欠ける展開となった。

17日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円減額の10,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.003%と、無難な結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.137～▲0.135%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1340%、按分落札利回▲0.1291%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.137～▲0.135%出会いと底堅く推移した。

20日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.096%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0989%、按分落札利回▲0.0940%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.110～▲0.105%出会いと堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、5,200億円程度の償還総額に対し、発行総額は9,200億円程度と大きく膨らんだ。直近では事業法人がCPでの調達をロールせず、償還超となるものが多かったものの、12月を控えて陸運・商社・小売・ノンバンク等の幅広い業態から大口の発行が実施され、発行超のマーケットとなった。発行レートは、引き続き24兆円近辺と高水準の市場残高で推移しているが、新型コロナ対応オペの担保需要を中心とする投資家・ディーラーの玉確保ニーズは強く、銘柄間でやや差はあるものの、概ねマイナス圏での決着が中心となっており、目線を切り下げる動きも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/16（月）	25,906.93	0.020	104.68	△ 0.038	△ 0.084	4,802,800
11/17（火）	26,014.62	0.020	104.48	△ 0.033	△ 0.094	4,801,000
11/18（水）	25,728.14	0.015	104.07	△ 0.035	△ 0.088	4,822,400
11/19（木）	25,634.34	0.010	103.84	△ 0.034	△ 0.098	4,821,900
11/20（金）	25,527.37	0.010	103.87	△ 0.033	△ 0.081	4,813,500

来週（11月24日から11月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/23 (月)	勤労感謝の日				
11/24 (火)	IMF・東京大学共催バーチャル・コンファレンスにおいて 黒田総裁講演	TB6M 38,000億円 11/25発行			9月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
11/25 (水)	月例経済報告(内閣府) 10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 5,000億円 11/26発行	交付税借入 11,000億円 12/3借入		7-9月期の米GDP改定値 10月の米新築一戸建て販売件数 10月の米耐久財新規受注 10月の米個人所得・消費支出 11月の米CB消費者信頼感指数
11/26 (木)	9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				New York祝日(Thanksgiving Day)
11/27 (金)	11月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 75,500億円 11/30発行	2Y 30,000億円 12/1発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/23 (月)	勤労感謝の日								
11/24 (火)	200	▲ 2,200	▲ 2,000	CP買入 国債補完	▲ 500 700		200	▲ 1,800	TB3M発行▲75500償還75100 流動性供給▲4000
11/25 (水)	0	▲ 25,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	TB6M発行▲38000償還9900 国有林野借入▲900償還500
11/26 (木)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	40Y発行▲5000
11/27 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	CP買入		6,000	6,000	4,000	
週 間 合 計	▲ 1,800	▲ 31,200	▲ 33,000	—	200	6,000	6,200	▲ 26,800	

11/24は日銀予想、11/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、25日にTB6M発行超要因による資金不足が見込まれている。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいでの推移を予想する。レポ市場は、GC T/Nは▲0.11～▲0.07%程度のレート水準が予想される。短国市場は、24日に6M物、27日に3M物の入札が実施予定となっている。全般的に短国の需給がしっかりしている中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、25日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、例年11月下旬は一年で最も事業会社の発行需要が旺盛となる時期であるが、今年は新型コロナウイルスへの対応から調達姿勢も変則的になることが予想され、発行動向が注目される。また、25日にCP等買入オペが予定されており、水準が注視される。

主要なイベントは、25日に7-9月期の米国GDP改定値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入